

領 域	統合分野（看護の統合と実践）	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	医療安全の基礎	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	① 蒲池 志穂 (別府医療センター・医療安全管理係長・看護師 27年) ② 村上 由紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 30年)		
<科目目標> 医療事故増加の現状や法律及び、医療安全に関する基礎的知識を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1	1. 医療事故増加の背景 1) 看護業務の特性と事故 (1) 多重業務 (2) 業務の中断と分担 (3) チーム医療と事故 2. 看護職が置かれている状況 1) 専門職業人である看護師の責務としての医療安全 2) 医療システムの中にいる人 3) 病院のエラー誘発要因	講義	①
2	3. 医療安全に関する法律 1) 医療事故と医療過誤 2) インシデントとアクシデント 3) 医療事故に関する法的責任 4) 注意義務 5) 説明義務	講義	①
3	4. 医療安全に関する基礎的知識 1) これまでの古典的精神主義 2) 事故発生のメカニズム 3) 組織自己と個人 4) ヒューマンエラーのメカニズム 5) ハインリッヒの法則 5. ヒューマンエラーの対策 1) メタ認知 2) 自己モニタリング (1) 外下 (2) 関連知識を増やす (3) 内省	講義	①
4・5	6. 安全管理対策への取り組み 1) 事故やヒヤリハット報告によるリスクの把握、分析、対策体制の確立 (1) 事故報告とヒヤリハット報告 ① 報告事例の有用性 ② 報告への抵抗の克服 ③ 報告のあり方 (2) データ分析・原因究明 ① 定量分析と定性分析 ・再発防止システム：根本原因分析（RCA） ・未然防止システム：失敗モード影響分析（FMEA） (3) 予防対策の立案 2) 医療安全管理のための職員研修 7. システムとしての事故防止の具体例 1) 患者誤認を防止するシステム 2) 療養上の世話の事故を防止するシステム (1) 転倒転落 3) 診療の補助の事故を防止するシステム (1) 与薬 (2) チューブトラブル	講義 演習	②

6	8. 医療安全とコミュニケーション 9. 医療事故報告書から読み取る、事例で起こったエラーと違反 1) エラー未然防止策	講義	②
7・8	10. 演習 1) KYT手法を用いた危険予知 2) 様々な分析方法を用いた、事例の要因分析の実際 (1) Pm-SHELLモデル (2) 4M-4Eマトリックス分析 (3) RCA	演習	②

#### 授業の進め方

医療事故分析については実際のインシデントレポートを用いて定性分析を行うことにより、医療事故の背景となる要因について理解する。

講義、演習による学習を通して学ぶ。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 医療安全 (医学書院) ①②

#### 評価方法

課題レポート、終講試験、授業参加状況等により総合的に評価する。



回	授業内容	授業方法	担当講師
4	6.施設・設備環境のマネジメント 1)医療施設の設備・設備環境 2)療養環境の整備 3)作業環境の整備 7.物品のマネジメント 1)物品資源管理の原則 2)物品供給システム 3)医薬品の取り扱いと管理 4)医療機器等の管理 5)廃棄物の取り扱いと管理	講義	①
5	8.看護ケアとマネジメント 1)ケアマネジメントと看護職の機能 2)看護基準と看護手順 3)患者の権利の尊重 4)医療安全のためのルールの順守と情報共有 5)病院機能評価 6)診療報酬制度 7)看護必要後	講義	①
6	9.情報のマネジメント 1)情報の種類と管理 (1)病院の経営情報 (2)職員情報 (3)守秘義務 (4)プライバシーの保護 (5)情報開示への対応 (6)診療記録等の電子化と医療情報システム	講義	①
7	10.組織におけるリスクマネジメント 1)組織としての医療安全対策 (1)組織としての医療安全管理の考え方 (2)組織的な医療安全管理の土台としての安全文化の醸成 (3)組織的な医療安全管理体制 院内の医療安全管理組織 セーフティマネージャー、各部署の医療安全管理担当者の役割 2)組織的な安全管理対策への取り組み インシデントレポート報告によるリスクの把握、分析、対策体制 3)感染予防対策 (1)職業感染 (2)看護師が行うべき職業感染への予防策 (3)ICTの役割 11.看護政策と行政 1)看護政策立案の過程 2)看護行政の組織と役割	講義	①
事前 課題	8講目開始前までに、自己のキャリア形成について考えておくこと		

回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	<b>【事前課題】</b> 12. キャリア支援 1) 卒後教育 2) 現任教育 (1) 院内教育(施設内教育) ①OJT ②Off JT ③新人看護職員教育 (2) 院外教育 3) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者、特定行為に係る 看護師の研修制度 4) 看護職者の教育とキャリア開発における今後の課題 5) 看護職者の養成制度の課題	講義	①
10	II. 国際看護 1. 看護における国際化の視点 1) グローバル化と政界共通の健康目標 2) グローバル化と人間の安全保障 3) 国際保健における日本の役割 2. 国際看護協力に関する機関 1) 政府開発援助(ODA) 2) 国際機関 3) 非政府組織(NGO) 3. 国際看護活動の支援を必要とする対象 1) 海外での活動 2) 国内での外国人 3) 在外日本人 4) 帰国日本人 4. 多様な文化と看護	講義	②
11	5. 国際看護活動に必要な能力 1) 異文化理解 2) コミュニケーション能力 3) マネジメント能力 4) 教育指導能力 など 6. 国際看護活動の実際 7. 在日外国人への看護 1) 大分県における外国人への医療サポート 2) 病院での外国人への看護の実際	講義	②
12	III. 災害看護 1. 災害の定義と種類 1) 災害看護の定義 2) 災害の種類と特徴 2. 災害医療の特徴 3. 災害時における法制度や社会のしくみ 1) 日本の制度: 災害救助法、災害対策基本法、大規模地震対策 特別措置法 2) 国際的支援のしくみ 3) 災害関係各機関の支援体制	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
13	4. 災害看護の活動の場 5. 災害時における看護師の役割 1) 外傷を負った人、疾患が増悪した人、こころのケアが必要な人など災害による健康上の問題をもつ人の救命、疾病治癒促進、環境調整、心のケア 2) 日常生活、生活環境をととのえ健康の保持に導く 3) 健康障害によって生じた苦痛の軽減 4) もとの生活へ向けて、自立的に復興していく力を支援する 5) チームでの連携、調整 6) 平時に防災力を備えるように支援 7) ケア提供者の健康保持	講義	③
14	6. 災害サイクルに応じた医療ニーズと看護 1) 静緩期(防災計画、マニュアル整備、地域医療体制見直しなど) 2) 前兆期(緊急体制整備) 3) 急性期 1 週間(初動体制の立ち上げ、災害傷病者の受け入れ態勢の整備、被災現場への医療救護班の派遣、他の医療機関との連携、救助、トリアージ、応急処置、救命) 4) 亜急性 2～3週間(生活援助、初期集中治療、感染症対策、合併症対策、心のケア) 5) 慢性期 2 週～3 年間(復興、リハビリテーション、心のケア) 7. 災害各期における援助者のストレスとこころのケア	講義	③
15	8. トリアージ	演習	④
<b>授業の進め方</b> テキストの内容と看護現場での状況や事例を紹介しながら授業をすすめる。講義を中心に進める。看護制度、看護職員の教育について学習し、自身の課題や卒業後にどうあるべきかグループワークを通して考える。			
<b>テキスト</b> 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理(医学書院)① 2. 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学(医学書院)②③			
<b>評価方法</b> 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	3 年前期～後期
科 目 名	看護の統合演習	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 30 時間
講 師	(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師)		
<p>&lt;科目目標&gt;  複数の対象において、変化する状況を把握し、臨床判断を用いて必要な看護をマネジメントしながら実践する能力を身につける。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1.複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護計画立案 ①事例における対象理解 ②患者Aに実施される看護の根拠 ③患者Aに実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者Aが納得する説明 【事後課題】患者Aの看護計画を①～⑤の視点で立案する。	講義 個人ワーク	
2	2. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護計画立案	グループワーク	
3	【事前課題】患者Aの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3.患者Aの状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習①	演習	
4	【事前課題】患者Aの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 4. 患者Aの状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習②	演習	
5.6	5. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護の実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション	シミュレーション演習	
【夏季休暇中課題】 1.患者Bの看護計画を立案する。 2.患者Bの看護実践に必要な看護技術の内容について学習し、技術練習する。			
7	6. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者B)の看護の実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション	シミュレーション演習	
8	7.2名の患者に対する実践 (1)ケアの優先順位の考え方 (2)タイムマネジメントと行動画立案の視点 (3)予期せぬ事象が発生した場合の対応 (4)タイムプレッシャーが生じた時の対応 【事前課題】患者A・Bの行動マネジメント計画を立案する。	講義	
9	7.2名の患者(患者A、患者B)の看護実践における行動マネジメント立案①	グループワーク	
10	8. 2名の患者に対する看護実践のための技術演習① I-SBARCを活用した報告	演習	
11	【事前課題】患者A・Bの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 9.2名の患者に対する看護実践のための技術演習②	演習	
12	10.2名の患者の看護実践における行動マネジメント立案②	グループワーク	
13.14	11.2名の患者に対する看護実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション	シミュレーション演習	

15	<p>－3) 2名の患者へのケアマネジメントまとめ</p> <p><b>【事後課題】</b> 2名の患者への看護実践をふまえて、統合実習での自己の課題についてレポートする。</p>	講義
<p>授業の進め方</p> <p>本科目では内容を2部構成とし、第一部では、複数の看護技術を要する1名の事例患者に対し、一つ一つのケアの根拠と起こりうるリスクをふまえ、一連のケアの中での優先度を判断し安全・安楽に実践する方法を学ぶ。</p> <p>第2部では、1部での学習内容をふまえて、2名の事例患者を受け持ち、状況に応じてそれぞれの看護の優先度を判断し、他の患者への配慮や調整をしながら安全・安楽な看護を実践する方法を学ぶ。</p> <p>実践（シミュレーション）で必要となる看護技術は各自で時間を確保し練習すること。</p>		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理（医学書院）</p> <p>他、演習内容に応じてこれまでのテキストすべて</p>		
<p>評価方法</p> <p>演習の参加状況、レポート、筆記試験、出席状況等総合的に評価する。</p>		

領 域	専門分野(看護マネジメント)	開講時期	3年前期																											
科 目 名 (単元名)	看護倫理	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)																											
講 師 (所属・職位等・実務経験)																														
<p>&lt;科目目標&gt; 倫理的意思決定の理論をもとに、看護チームでの意思決定を導くプロセス、倫理的ジレンマについて理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任      2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント      4) 看護情報と守秘義務</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>終了試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任      2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント      4) 看護情報と守秘義務	講義	2	5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領	講義	3	2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」	講義 演習	4	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1	演習	5	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2	演習	6	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3	演習	7	3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携	講義	8	終了試験	
回	授業内容	授業方法																												
1	1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任      2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント      4) 看護情報と守秘義務	講義																												
2	5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領	講義																												
3	2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」	講義 演習																												
4	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1	演習																												
5	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2	演習																												
6	2. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3	演習																												
7	3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携	講義																												
8	終了試験																													
<p>授業の進め方 看護倫理を考える上で基礎となる倫理原則について、歴史的経緯や具体的な看護場面をもとに学習する。また、倫理的ジレンマを抱いた実習での場面を想起し、その場面について4ステップモデルを用いたグループ演習とクラス全体での発表会をとおして倫理的意思決定の方法を理解する。</p>																														
<p>テキスト 1. 看護倫理 改訂第3版 (南江堂)</p>																														
<p>評価方法 筆記試験、課題レポート、授業への参加状況により総合的に評価する。</p>																														